

平成 2 5 年度（平成 2 4 年度対象）

教育に関する事務の管理及び執行の 状況の点検及び評価に関する報告書

平成 2 5 年 1 2 月

常陸太田市教育委員会

目 次

．教育委員会施策の点検・評価の概要

1．趣旨・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・	1
2．点検・評価の目的・・・・・・・・・・・・・・・・	1
3．点検・評価の対象・・・・・・・・・・・・・・・・	1
4．点検・評価の方法・・・・・・・・・・・・・・・・	1
5．点検・評価結果の公表等・・・・・・・・・・・・	2
6．点検・評価結果の概要・・・・・・・・・・・・	2

．施策別点検・評価

教育委員会施策の点検・評価書（平成24年度事業）	4
--------------------------	---

参考 教育委員会の活動状況	27
---------------	----

．平成 2 5 年度教育委員会施策の点検・評価の概要

1 ．趣旨

- 地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和 3 1 年法律第 1 6 2 号）第 2 7 条第 1 項の規定に基づき、市教育委員会が、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について点検及び評価を行う。

2 ．点検・評価の目的

- 教育委員会における主要な施策や事務事業について点検・評価を行い、課題や取組みの方向性を明らかにすることにより、効果的な教育行政の一層の推進を図る。
- 点検・評価の結果について報告書を作成し議会に提出するとともに、公表することにより、市民への説明責任を果たし市民に信頼される教育行政を推進する。

3 ．点検・評価の対象

- 平成 2 4 年度施策を点検・評価する。
 - ・常陸太田市第 5 次総合計画後期基本計画における教育委員会所管の 1 2 施策
 - ・常陸太田市学校教育プラン（H E A R T アッププラン）における 5 施策

4 ．点検・評価の方法

- 施策を構成する主な事務事業の評価を基に、施策の目標達成に向けた取組状況と成果の点検・評価を実施する。
- 学識経験者による教育行政評価委員が、施策評価や施策の改善点等について審議する。

（ 1 ）事務事業の評価

- 施策の目標達成のために行った主な事務事業について、その成果や課題を精査検証し評価する。
- 評価については、「 a 期待した成果があった」、「 b 一定の成果があった」及び「 c 見直しや改善が必要」の三段階で評価する。

（ 2 ）施策の評価

- 事務事業の評価結果を踏まえ、施策全体の総合的な成果を評価する。
- 評価については、「 A 期待した成果があった」、「 B 一定の成果があった」及び「 C 見直しや改善が必要」の三段階で評価する。
- 今後の方向性を明確にするため、「課題と今後の方向」を記載する。

（ 3 ）学識経験者の知見の活用

- 点検・評価の客観性を確保するため、教育に関し学識経験を有する教育行政評価委員の審議を行う。

○教育行政評価委員（敬称略）

分 野	氏 名	所属等
学 校 教 育	村 田 規	元学校長（元学校長会会長）
社 会 教 育	益 子 治	社会教育委員会議議長
保護者関係	遠 藤 智 子	市女性ネットワーク委員会委員

5．点検・評価結果の公表等

（１）議会への提出

- 点検・評価の結果について報告書を作成し、市議会に提出する。

（２）市民への公表

- 報告書を市ホームページにより公表する。

6．点検・評価結果の概要

- 主な事務事業の評価結果を踏まえ、施策全体の総合的な成果を、「Ａ 期待した成果があった」、「Ｂ 一定の成果があった」及び「Ｃ 見直しや改善が必要」の三段階で評価した。
- 今回、点検・評価の対象とした１７施策は、全て「Ｂ 一定の成果があった」であった。

（１）総合計画における教育委員会所管の１２施策

番号	施策名	評価結果	主な事務事業数	主な事務事業の評価結果		
				a	b	c
1	子育てへの支援	B	3	2	1	
2	豊かな心の育成	B	6		6	
3	魅力ある学校づくり	B	5	1	4	
4	国際力の育成	B	1		1	
5	多様な学習機会の支援	B	3	1	2	
6	地域文化活動への支援	B	5	1	4	
7	スポーツ・レクリエーション活動への支援	B	4	1	3	
8	犯罪のないまちづくり	B	1		1	
9	地産地消の推進	B	1		1	
10	歴史資源の保護・活用	B	5	2	3	

1 1	自然・観光資源の環境整備とネットワーク化	B	3	1	2	
1 2	広域連携・交流の推進	B	1		1	
計			3 8	9	2 9	

(2) 学校教育プラン (H E A R T アッププラン) における 5 施策

番号	施策名	評価結果	主な事務 事業数	主な事務事業の評価結果		
				a	b	c
1 3	H 健やかな体はぐくみプラン	B	3		3	
1 4	E 開かれた学校づくりプラン	B	3	2	1	
1 5	A 確かな学力向上プラン	B	3	1	2	
1 6	R 豊かな心はぐくみプラン	B	3	1	2	
1 7	T 教職員研修プラン	B	3	1	2	
計			1 5	5	1 0	

・ 施策別点検・評価

- 別紙「教育委員会施策の点検・評価書（平成 2 4 年度事業）」による。

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	子育てへの支援				担当課	教育総務課・生涯学習課	
総合計画における位置づけ	第 1 章	「輝く人」をつくる					
	第 1 項	未来を拓く人づくり					
施策の目標	・地域で安心して子どもを産み育てられるよう、地域ぐるみの子育て支援体制の充実を図る。 ・経済的支援や相談体制など、子育て家庭への支援対策の充実を図る。						
現状と課題	・核家族化や少子化、高度情報化など子どもを取り巻く社会環境は大きく変化し、子育てへの不安が社会問題となっている。安心して子育てができる環境や子育て家庭へのよりきめ細やかな支援など、少子化・人口減少対策の一環として、地域ぐるみの子育て支援の一層の充実を図る必要がある。 ・子育て世代の経済的負担を軽減するため、市立幼稚園に通う第3子以降の園児及び私立幼稚園に2人就園している場合の2番目の園児の保育料について減免を実施。						
事務事業の成果と評価	事業名	概 要		主 な 成 果		評 価	
	放課後子ども教室推進事業	・放課後の小学生の活動場所として、ボランティアが子どもたちの安全を見守りながら一緒に活動し、子どもたちが安心して自由に「学び」「体験」「交流」「遊び」ができる環境をつくる。		・市内全小学校区(14小学校区)で放課後子ども教室を実施し、うち9小学校区で週1回、5小学校区で週2回実施した。実施回数607回、参加児童数566人、ボランティア登録人数は236人であった。 ・市内の全小学校区で実施し、対象児童の84.5%が参加した。		b	
	市立幼稚園保育料の第3子以降無料化	・市立幼稚園に通う園児が第3子以降にあたる場合、保育料の全額免除。		・73名の減免申請があり、減免を認定した。		a	
	市立幼稚園保育料の2人目減額措置	・市立幼稚園に同一家庭から2人就園している場合の2番目の園児について、保育料を月3000円減額。		・29名の減免申請があり、減免を認定した。		a	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)		H22	H23	H24	評価
	放課後子ども教室推進事業	放課後子ども教室への参加率(%) (参加人数/対象人数)		78	83	85	b
	市立幼稚園保育料の第3子以降無料化	減免認定者数		103	84	73	a
	市立幼稚園保育料の2人目減額措置	減免認定者数		-	-	29	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要		
			○				
課題と今後の方向	・一部の小学校区では、ボランティアの人数が少なくなっている。事業の一層の充実を図るためにも、ボランティアへの協力者を確保する必要がある。また、更なる事業内容の充実を図るため、運営委員会や学校、ボランティアとして活動されている地域の方々の意見等を踏まえ、事業内容の検討をしていく。 ・第3子以降園児の保育料の全額免除を実施しているが、保育所の第3子無料化と整合性をとるため、平成25年度から給食費の無料化を実施する。						
教育行政評価委員による意見	・市立幼稚園保育料の第3子以降無料化や2人目減額措置と同じように、預かり保育に対しても減免等何らかの措置を講じるよう検討してほしい。						

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	豊かな心の育成		担当課	教育総務課・生涯学習課・図書館・市民交流センター
総合計画における位置づけ	第 1 章	「輝く人」をつくる		
	第 1 項	未来を拓く人づくり		
施策の目標	・子どもたち等が感性を磨き豊かな創造力を身につけられるよう、音楽や芸術活動、読書活動を推進する。 ・市民の総意を結集し、連帯と協調によって青少年の健全育成を図る。 ・絵本を通して親子が心ふれあうひとときをもつきっかけをつくる。また、幼少の早い時期から本に親しんでもらう。			
現状と課題	・小中学生に楽器演奏や演劇等を鑑賞させることにより、芸術への関心をたかめさせ、感動の心、豊かな情操を涵養し、健全な青少年を育成していく。 ・児童・生徒の読書活動を推進するため学校図書館の充実を図っている。 ・少子化や高度情報化、都市化など青少年を取り巻く社会環境が激変する現状の中で、青少年を取り巻く生活環境は悪化の傾向にあり青少年による衝動的な犯罪や陰惨な事件が頻発するようになっている。このような青少年を取り巻く問題に対処するためには、学校や関係団体、関係機関との連携・協力を図りながら、家庭や地域社会における教育力の向上に努め、優れた地域資源や人材を活用して、郷土常陸太田市への愛着を持った青少年健全育成を推進する必要がある。 ・核家族化や晩婚化が進行する中、子育てへの不安が社会問題となっている。そうした中で、子育て家庭への支援の一層の充実が求められている。 ・音楽をととした感性や創造力の育成のため、ミュージックセミナー開催事業・グランドピアノ開放事業を推進している。			
事務事業の成果と評価	事業名	概 要	主な成果	評価
	小学生・中学生芸術鑑賞教室	・小学5・6年、中学1・2年を対象に市民交流センターにおいて楽器演奏や演劇等を鑑賞する。	・芸術への関心をたかめさせ、感動の心、豊かな情操を涵養している。	b
	学校図書館の充実	・文部科学省の設定している学校図書館の図書標準冊数(学級数により異なる)を達成するため、計画的に図書を購入している。 ・小学校の学校図書館へ専任司書の配置。	・平成24年度末には、小・中学校全校で学校図書館の図書標準を達成することができた。 ・平成24年度には、小学全校に専任司書を配置し学校図書館の充実を図っている。	b
	青少年健全育成市民の会	・「青少年健全育成市民の会」の活動支援を行う。 シンボルマーク募集事業 青少年主張作文の募集及び弁論大会の開催 毎月第3日曜日の『家庭の日』の推進(絵画・標語等作品募集、自然体験事業の実施) 『あいさつ・声かけ運動』の普及・推進 青少年育成茨城県民会議との連携・協力 地区推進協議会、町推進委員会における事業の実施	・市民の会表彰要綱に基づく表彰(団体5組、個人10名)・機関紙『グリーンネックレス』の発行(2回)・シンボルマーク募集166名179作品・いじめ問題合同研修会58名参加・家庭の日絵画、標語等募集(応募総数657点)・家庭の日推進講演会(参加者数400人)・市内巡回パトロール(2回延18人参加)・視察研修(参加者数16人)・青少年の主張作文208点・弁論大会(参加者数300人)・『あいさつ・声かけ運動』等街頭キャンペーン(2回120人)	b
	ブックスタート	・0歳児(4～6ヶ月児)健診時に、ボランティアによる読み聞かせを実施した後、ブックスタートパックをプレゼントする。 ブックスタートパック(絵本2冊、ブックスタートのしおり等布製バッグに入れたもの)	・絵本を通して親子が心ふれあうひとときをもつきっかけをつくることができた。 平24対象者...254人 平23対象者で未受領者7人(平23.4月～9月生まれで、受領時満1歳未満の乳児) 平24対象者247人(平23.10月～平24.9月生まれ) 平24受領者...230人 平23年度0歳児数220人 平24年度0歳児数264人	b

事務事業の 成果と評価	ミュージックセミナー開催	・市民吹奏楽団との共催により、一流の講師を招いて管・打楽器の個人セミナーと団体セミナーを開催する。	・個人セミナーは、管・楽器8部門について全5回のレッスンを実施し、団体セミナーは、市内中学校と高等学校の吹奏楽部が1～2回参加した。 ・市内中学校2校が県北地区コンクールで優秀賞を受賞し県大会に出場するなど成果を挙げている。			b
	グランドピアノ開放	・大ホールに設置のグランドピアノ2台を開放し、音楽に対する感性を培うとともに技術向上のために寄与する。	・5期15日間で69名参加を得て、本格的演奏を体験してもらうことができた。			b
成果を示す 主な指標	事業名	指標名(単位)	H22	H23	H24	評価
	小学生・中学生芸術鑑賞教室	参加した児童生徒数(人)	2,168	2,036	1,939	b
	学校図書館の充実	図書標準達成校数(校)	20	23	22	b
	青少年健全育成市民の会	市民の会主催事業の参加者数(人)	1,456	1,325	1,882	b
	ブックスタート	贈呈率(%)	94.9	91.9	90.6	b
	ミュージックセミナー開催	セミナーの受講者数(団体含む)(人)	493	465	505	b
	グランドピアノ開放	開放の参加者数(人)	37	17	69	b
施策の 総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と 今後の方向	・平成23年度に小・中学校それぞれ「芸術鑑賞教室実施計画」を作成したので、鑑賞内容が偏らないよう計画的に実施していく。 ・小学校全校に専任司書を配置したので、これまで以上に司書教諭と連携し、より魅力ある学校図書館を運営していく。 ・青少年健全育成に対する市民ひとり一人の意識を高めていくことが課題である。青少年の健全育成の推進を図るためには、青少年健全育成市民の会をはじめとし、学校や地域、関係団体等との連携・協力が不可欠であるので、今後も関係機関等との連携強化を進めながら、各種事業の充実化や各種推進運動の普及を推進する。 ・平成22年度から実施しているが、ブックスタート事業のPRに努め、対象赤ちゃんに兄弟姉妹と同じ絵本がプレゼントされないよう選書に配慮し、贈呈率の向上を図る。また、おはなし会やその他の図書館行事にも足を運んでもらい、幼少の早い時期から本に親しめるよう継続していく。家族みんなが本に興味を持ち、読書環境をつくることによって図書の利用向上を図れるよう推進していく。 ・ミュージックセミナー開催事業は、レッスンセミナーとして定着し成果を挙げていることから、今後も継続していく。しかし個人セミナーの受講者が、児童・生徒数の減少化に伴い年々減る傾向にある。 ・グランドピアノ開放事業は、開放期日を年々拡大して実施してきたが、現在の5期15日間の開放で定着していることから、この開催期日を継続していく。					
教育行政 評価委員 による意見	・芸術鑑賞教室は今後も継続してほしいが、子どもたちに最適となるよう開催時期を検討してほしい。 ・青少年健全育成推進を図るためにも、あいさつ・声かけ運動を今後も積極的に取り組んでほしい。 ・ブックスタートは幼児期から本に親しむきっかけづくりのためにも、継続的な取り組みをお願いしたい。					

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	魅力ある学校づくり		担当課	教育総務課
総合計画における位置づけ	第 1 章	「輝く人」をつくる		
	第 1 項	未来を拓く人づくり		
施策の目標	・基礎学力の向上と児童・生徒一人ひとりに対するきめ細やかな指導を目指して、教職員の資質向上を図る。 ・学校・家庭・地域が一体となった教育を推進する。 ・園児・児童・生徒の通園通学手段や安全を核をするため通園・通学バスを運行するとともに、遠距離通学する児童生徒の通学費を補助し、保護者の負担軽減を図る。 ・学校施設等の耐震化や老朽施設の改修整備を推進し、学校規模・配置の適正化を図る。			
現状と課題	・児童、生徒及び園児の数は、少子化の進行により減少し、複式学級や学級数の減少が進み、小・中学校や幼稚園においてこれらをできるだけ解消するため、統廃合の協議が進められている。 ・園児及び児童・生徒の安全確保や通学時間の短縮のため、また、幼稚園統合による園児の通園手段を確保するため通園・通学バス等を運行する。 ・遠距離通学する児童生徒の保護者の負担軽減を図るため、バス通学及び自転車通学者に対し通学費を助成する。 ・学校施設の耐震化や老朽施設の更新・整備等は計画的に進めているが、施設整備の前倒しや整備方針の変更など早急に完了する必要がある。			
事務事業の成果と評価	事業名	概 要	主な成果	評価
	学校統廃合	・少子化の影響で、園児・児童・生徒数が減少し小規模化している。 ・小中学校等における仲間づくりや教育内容の質的充実を図るため、適正規模を確保し、より良い教育環境を整えていく必要がある。 ・将来的な園児・児童生徒数の推移や地域の地理的・歴史的な成り立ちによる生活圏等に配慮した市の全体的な適正配置に努める。	・小里小学校と賀美小学校については、平成26年度から里美地区統合小学校とすることが決まった。 ・南中学校と北中学校については、平成27年度から金砂郷地区統合中学校とすることが決まった。 ・郡戸幼稚園については、園児数の減少に伴い平成24年度をもって廃園とした。	a
	通園・通学バス運行	・通園・通学バスの運行業務委託、タクシーによる送迎業務委託。	・園児及び児童・生徒の安全確保、通学時間の短縮。	b
	遠距離通学費補助事業	・小学校：通学距離4km以上のバス通学者に対し、定期代全額補助。 ・中学校：通学距離6km以上のバス通学者に対し、6kmを超える部分の定期代の補助。また、通学距離6km以上の自転車通学者に対し、月額1,000円を補助。	・遠距離通学する児童生徒の保護者の負担軽減。	b
	学校施設耐震診断・耐震改修	・幼稚園及び小中学校の校（園）舎・屋内運動場の耐震診断を行い、改修が必要な施設の耐震改修工事を行う。耐震改修は、平成27年度までに行う。	・耐震診断は、中学校1校の屋内運動場を実施した。 ・耐震改修の実施設計は、中学校1校（屋内運動場）と小学校5校（校舎4校・屋内運動場1校）について行った。 ・耐震改修工事は、太田中学校（教室棟、管理棟）、世矢中学校特別教室棟、水府中学校教室棟の4棟を実施した。	b

事務事業の 成果と評価	峰山中学校校舎建設	・老朽校舎の改修(校舎改築工 事: H21年度～22年度)により 快適な教育環境の充実と地 震等非常時の生徒等の安全 確保を図る。 ・構造: 鉄筋コンクリート造 ・階数: 地上2階 ・延床面積: 4,886.80㎡	・校舎建築については、平成23年1月に竣 工し、平成23年度は旧校舎の解体を 行った。平成24年度に外構工事をを行い、 峰山中学校の校舎建設事業については 完了となる。	b		
成果を示す 主な指標	事業名	指標名(単位)	H22	H23	H24	評価
	通園・通学バス運行	園児・児童・生徒の乗車人数	128	107	243	b
	遠距離通学費補助事業	補助実施者	330	296	264	b
	耐震診断	耐震診断実施(校)	10	10	1	b
	耐震改修	耐震改修工事実施済(校)	0	3	3	b
施策の 総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と 今後の方向	・学校等の統廃合については、市の統合方針(案)に基づき、積極的に関係者と調整を図り推進する。 ・通園・通学バスについては、園児が減少している中、運行コストが上がっているためコストの抑制を図って いく必要がある。 ・中学生の自転車通学者に対する補助額が、地区によって異なっていたため平成25年度より統一する。 ・耐震改修を予定している建物について、順次実施設計を行う。耐震化においては、統合を予定している南中 学校以外のすべての建物において、耐震化完了年度の平成27年度を1年前倒しをして平成26年度までに完了さ せる。					
教育行政 評価委員 による意見	・統廃合により通学距離が長くなるため、通学バスの運行は必要と考えるが、子ども達の健康面・安全面を考慮 しながら運行にあたってほしい。 ・少子化の影響により児童・生徒数の減少が予想される。子ども達にとって最良の環境づくり、学校経営を目指し 努力してほしい。					

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	国際力の育成		担当課	教育総務課		
総合計画 における 位置づけ	第1章	「輝く人」をつくる				
	第1項	未来を拓く人づくり				
施策の目標	・中学生の海外派遣の充実を図る。					
現状と課題	・中学生に広い視野と国際感覚を養うため海外研修派遣を実施している。					
事務事業の 成果と評価	事業名	概 要	主な成果			評価
	中学生海外研修派遣	・中学2年生を対象に、オーストラリアにおいて、海外研修を実施。学校訪問による授業体験、ホームステイ、施設見学等を行う。	・中学生に英語や国際社会への関心をたかめさせ、国際理解教育の推進を図ることが出来た。			b
成果を示す 主な指標	事業名	指標名(単位)	H22	H23	H24	評価
	中学生海外研修派遣	中学生海外研修申込者数	32	60	37	b
施策の 総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と 今後の方向	・中学生の広い視野と国際感覚を養うため、研修内容の充実を図りながら実施していく。					
教育行政 評価委員 による意見	・海外研修は中学生にとって貴重な体験である。今後も継続した事業の取り組みを期待する。 ・参加者の自己負担額軽減について、検討を進めてほしい。					

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	多様な学習機会の支援				担当課	生涯学習課・生涯学習センター	
総合計画における位置づけ	第 1 章	「輝く人」をつくる					
	第 2 項	楽しい人生の生きがいづくり					
施策の目標	・市民のニーズやまちづくりと連携した学習内容や機会の充実を図る。 ・市民に地域資源を活用した学習機会を提供し、エコミュージアムの推進を図る。 ・科学の好きな子どもを育てる。						
現状と課題	・地域における社会教育・生涯学習の拠点として設置された公民館において、市民の教養の向上や生活文化の振興を図ることができるように、各分野にわたる公民館活動の活性化を推進しているが、各地区の人口や就労状況等の違いにより公民館の活動内容に大きな開きがあるが、地域の特性を生かした事業を展開していくことが課題である。 ・地域資源を活用した講座としてふるさとの四季にふれる自然講座や常陸太田探検隊講座等を開催している。引き続き魅力ある講座の企画が必要である。 ・現在、小学校や中学校で「理科離れ」が進んでいると言われていたが、小さい段階から自然や科学の現象に触れたり、体験を通して理科の好きな子を育てるのが課題である。						
事務事業の成果と評価	事業名	概 要	主な成果			評価	
	公民館活動活性化対策	・地区公民館に活動の原資となる助成金を交付するとともに、公民館職員の研修や講習会を実施し、各分野バランスのとれた一般教養・家庭教育、健康、女性、青少年、高齢者、スポレク・コミュニティ、趣味の7つの分野に分けた学級・講座等を開催する。 ・人口減少・少子化問題、健康づくり推進事業、地産地消、三世代交流、環境問題等、市の総合計画に基づく重要施策を推進する。	・市民のニーズを的確にとらえたバランスのとれた事業、これまでの自己欲求を満たすだけの事業ではなく、地域コミュニティの振興やネットワークの強化を図り、「人づくり」「まちづくり」に資するため、市内19の公民館において341種の教室、講座を運営し、47,579人の参加者があった。			b	
	地域資源学習講座	・地域資源を活用した歴史講座や自然講座等を開催する。	・地域資源を活用した歴史講座や自然講座等のほか、各地区の特色を活かした講座を実施し地域の素晴らしさを学ぶことができた。			b	
	子ども科学クラブの開催	・子ども科学クラブ実行委員会を開催し年10回の教室を実施する。	・予想以上の参加申込みがあり、参加した児童たちは、楽しみながら科学の実験や体験をすることができた。			a	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)		H22	H23	H24	評価
	公民館活動活性化対策	公民館事業参加者数(人)		51,842	49,048	47,579	b
	地域資源学習講座	参加者数(人)		439	370	441	b
	子ども科学クラブの開催	開催回数(回)		10	10	10	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要		
			○				
課題と今後の方向	・公民館活動全体のさらなる活性化とともに活動レベルの平準化を図ることが課題である。公民館職員を対象とした研修会を行い個々の資質の向上を図るとともに、地域住民のニーズを的確にとらえた学級、講座等の企画・運営を行ない事業レベルの底上げを行なっていく。 ・各地域の特色を生かしたエコミュージアム体験講座の企画が今後の課題である。引き続きアンケートなどを基に内容や開催場所、日時等についても検討していく。 ・子ども科学クラブ事業は、参加申込み人数が受入れ人数を上回っていることから、如何に多くの児童を受入れられる体制を整備するかが今後の課題である。また、低学年から高学年までを参加対象にしていたが、実験内容が低学年には難しいものもあることから、小学3年生以上の児童を対象とした。						

教育行政 評価委員 による意見	・地域資源学習講座はエコミュージアムやジオパーク等との連携を図るとともに、広く市民に周知して事業を推進してほしい。 ・子ども科学クラブは人気があり、定員を超える参加申し込みがあると聞く。募集定員の拡大や応募方法等の検討が必要ではないか。
--------------------------------	---

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	地域文化活動への支援		担当課	生涯学習センター・市民交流センター		
総合計画における位置づけ	第 1 章	「輝く人」をつくる				
	第 2 項	楽しい人生の生きがいづくり				
施策の目標	・市民の生涯学習に対する意識を高めるとともに、市民一人ひとりの自主的学習を促進し、生涯学習の一層の振興と地域の活性化を図る。 ・市民の芸術や文化活動、教養を高める自主的な活動を活発化するため、活動や発表の場を提供する。					
現状と課題	・各地区において、特色を生かした生涯学習フェスティバル等を開催しているが、参加団体が少なくなっている地区がある。 生涯学習センター（2月開催：生涯学習フェスティバル） 金砂郷学習センター（11月開催：芸術文化の祭典inかなさごう） 水府学習センター（11月開催：水府地区きらめきフェスティバル） 里美学習センター（11月開催：里美文化祭） ・自主企画事業は、市民等が親しみ、楽しめる芸能・芸術鑑賞機会や市民参加型事業を提供している。 ・ロビーコンサートは、市内在住及び市出身の音楽家等の発表の場、市民等が無料で親しめるコンサートとして年に数回、休日の午後に開催している。 ・市の助成により、市内の音楽関係団体や芸能文化団体が一堂に会した発表を行い、市民に鑑賞や発表の機会を提供している。来場者についても実績を上げている。 ・市民の芸術文化活動の発表の場として、市美術展覧会、ひたちおおた芸能祭等の文化事業を開催している。					
事務事業の成果と評価	事業名	概 要	主な成果			評価
	生涯学習フェスティバル等の開催	・各学習センターにおいて、それぞれ地域の特色を活かした生涯学習成果発表会を実施する。	・参加者には、日頃の生涯学習の成果の発表をすることにより、更なる学習意欲の高揚になっている。また、来場者には市内で活動している生涯学習サークルの紹介の場になっている。			b
	自主企画	・自主・共催事業併せて9事業11公演を実施する。	・入場率は58.6%と昨年より5.5%低下した。特に業者とともに実施した共済事業の入場率が低かった。			b
	ロビー - コンサ - ト	・出場者を募集してコンサートを実施する。	・当初年間8回の事業で予定したが、応募件数が多く、10回10組のグループが出場しての身近なコンサートが開催できた。			a
	美術展覧会開催	・市民等の日頃からの創作活動の成果発表の場として、小中学生・一般の部に分けて美術展覧会を開催する。	・市民等の日頃からの創作活動の成果発表の場として有意義であった。			b
	文化振興補助(芸能祭ほか)	・補助対象団体によりコンサートや芸能祭を開催する。	・市の芸能文化の振興に寄与できた。多くの出場者や来場者があり、市民等の大きな支援を得ている。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H22	H23	H24	評価
	生涯学習フェスティバル等開催	参加団体数	222	190	193	b
	自主企画	事業の入場者数(人)	7,396	4,931	6,233	b
	ロビー - コンサ - ト	事業の来場者数(人)	545	525	755	a
	美術展覧会開催	一般の部出品点数(件)	218	238	196	b
	文化振興補助(芸能祭ほか)	事業の来場者数(人)	3,000	3,000	3,000	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			

課題と 今後の方向	・参加団体、来場者の少なくなっている地区については、いかに生涯学習団体を育成していくかが課題である。 ・生涯学習団体の育成については、今後、施設活用と併せた各種教室の開催や関係各課と検討を進める。 ・平成23年度は、震災の影響により参加団体等が減少したものと考えられる。 ・自主事業のうち、入場率の上がないクラシック・演劇等の部門については、補助事業や共催事業の導入を図って対処していきたい。 ・ロビーコンサートは、地域音楽家の発表の場、身近なコンサートとして定着している。今後も現状を維持しながら推進していきたい。 ・美術展覧会、芸能祭等の芸術文化事業は、市民にとって日頃の活動成果を発表する場として意義あるものであり、今後も継続して実施していきたい。
教育行政 評価委員 による意見	・生涯学習フェスティバルは他のイベント開催に合わせて実施している地区もあり、それらを利用して来場者の増加を図ることも団体の励みになるのではないかと考える。 ・ロビーコンサートは、無料で楽しめる身近なコンサートとして興味・関心度が高い。今後とも音楽家等の発表の場として継続して提供していったほしい。

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	スポーツ・レクリエーション活動への支援			担当課	スポーツ振興課		
総合計画における位置づけ	第 1 章	「輝く人」をつくる					
	第 2 項	楽しい人生の生きがいづくり					
施策の目標	・子どもから高齢者や障害者まで、誰もがいつでも、どこでも、いつまでも気軽に楽しくスポーツ・レクリエーションに親しめるよう環境整備を進める。						
現状と課題	・自由時間の増大や健康志向の広がりなどに伴い、市民の誰もが体力や年齢などに応じてスポーツ・レクリエーションに親しむことができるよう各種の教室や大会を開催するとともに、こうした活動に適切な指導・助言ができる指導者の養成・確保に努めている。 ・運動習慣のきっかけづくりとしてチャレンジデー、市民健康スポーツデーを取り組み、体育協会支部等との連携を図りながらスポーツ実施率の向上に努めている。 ・体育施設は合併前において各種の制度を活用し運動広場や野球場、体育館、プールなどが整備されてきたが老朽化が進んでいる施設が見られる。						
事務事業の成果と評価	事業名	概 要	主な成果			評価	
	各種スポーツ大会の開催	・市民の体力づくり、競技力向上のために各種スポーツ大会を開催する。	・8大会中2大会で参加人数が増加しており、スポーツの振興に効果があった。登山マラソンにおいては市外からの参加者もあり、交流人口の増加や市のPRにも貢献できている。			b	
	市民体力づくり推進	・市民の健康づくりや体力づくりを目的として、運動習慣づくりの啓発広報及び各種スポーツ教室を開催する。	・5事業中2大会で参加人数が増加しており、スポーツの振興に効果があった。スポーツ推進委員の巡回スポーツ教室や地域への派遣により地域スポーツの振興が図られている。			b	
	スポーツ施設整備	・市民が安全・安心にスポーツ・レクリエーションに親しめる施設環境の整備を進める。	・施設全体で利用者は20万人を超えており、スポーツの振興が図られている。しかし、平成24年度については、体育館が9月より耐震改修工事に入ったため、震災前より利用者が減少している。			b	
	温水プール運営	・市民の健康増進を図るため、民間のノウハウを活用した指定管理制度による運営を行う。	・平成23年度は震災の影響で他のプールが使用できなくなった影響で一時的に利用者が増加したが、平成24年度は、水泳教室の開催等により震災前の利用者を上回っている。			a	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)		H22	H23	H24	評価
	各種スポーツ大会の開催	参加者数(人)		4,292	4,231	3,945	b
	市民体力づくり推進	参加者数(人)		23,164	19,214	22,263	b
	スポーツ施設整備	体育施設利用者数(人)		243,553	202,526	214,547	b
	温水プール運営	温水プール利用者数(人)		44,664	58,061	55,724	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要		
			○				
課題と今後の方向	・人口減少と高齢化が進む中において、健康でいきいきと市民が生活できる環境を進めるために、市民がそれぞれの年齢や体力に応じてスポーツ・レクリエーション活動に積極的に参加し、楽しみながら健康づくりができる各種事業を推進する。 ・市民の健康・体力づくり活動を通して、地域コミュニティの活性化を図るため、生涯スポーツ組織の育成に努める。 ・老朽化した施設については、施設整備計画を策定し緊急性の高いものから計画的に改修する。 ・民間の経営で培われた経営手法を活かしてスポーツ施設の管理運営を進める。						

教育行政 評価委員 による意見	・市民の体力づくり、健康づくりのために尽力され、活動に取り組んでいることに敬意を表す。 ・温水プールは指定管理者により運営されているが、管理運営や申し込み方法など市民の要望について担当課と連携を図り、誰もが気軽にスポーツに親しめる環境整備を引き続き進めてほしい。
--------------------------------	--

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	犯罪のないまちづくり		担当課	教育総務課		
総合計画における位置づけ	第2章	「安らぎのある快適環境」をつくる				
	第3項	安全安心なまちづくり				
施策の目標	・「地域子ども安全ボランティア」や「子どもを守る110番」など、地域住民の協力を得ながら登下校時の子どもの安全を確保する。					
現状と課題	・子どもの安全確保のため、「こどもを守る110番の家」の拡充、地域子ども安全ボランティアとの連携強化により、地域ぐるみの防犯活動を推進する。					
事務事業の成果と評価	事業名	概 要	主な成果			評価
	子どもの安全対策強化	・登下校時の児童生徒の安全を確保するため、地域子ども安全ボランティアの登録推進や研修会の実施。	・保護者や地域住民が、地域子ども安全ボランティアとして、登下校の見守りや、あいさつ・声かけ運動を行うことにより子どもの安全確保が図られた。			b
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H22	H23	H24	評価
	子どもの安全対策強化	地域子ども安全ボランティア会員数(人)	800	767	754	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と今後の方向	・地域子ども安全ボランティアとの連携を密にし、組織の強化を図るとともに、会員数が減少傾向にあるため、増加促進を図る。					
教育行政評価委員による意見	・バス通学など登下校の方法も多岐にわたり、地域子ども安全ボランティアの果たす役割は非常に大きくなっている。ご尽力いただいているボランティアの方々に敬意を表する。 ・子どもの安全対策としては登下校時の安全確保以外に、子ども達が巻き込まれる犯罪が多様化している。子ども達を犯罪や事故から守るため、学校・地域等様々な機関と連携を密にし、情報の迅速化に努めてほしい。					

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	地産地消の推進		担当課	学校給食センター		
総合計画 における 位置づけ	第3章	「まちの元気」をつくる				
	第1項	地域を支える産業の元気と働く環境づくり				
施策の目標	・学校給食において地場産物を利用拡充し、地産地消の更なる推進を図る。					
現状と課題	(現状) ・学校給食における地元産食材の利用状況は、米、豆腐、醤油、こんにゃく等は全て地元産を使用している。 ・長ネギ、きゅうり、大根、白菜、を中心に多く取り込んでおり、その他の食材も増えている。 (課題) ・生産体制の確立及び整備に取り組んでいるが、収穫時期が限られており、食材の種類や納入量の安定した確保が難しい。					
事務事業の 成果と評価	事業名	概 要	主な成果			評価
	地産地消の推進事業	・地元食材にこだわった特別メニューで児童生徒への地域理解を高める。 ・米粉パン導入による地元産コシヒカリ米の消費拡大と安心した給食の提供。	・地場産物を利用した地元産コシヒカリ米及び野菜等の導入により、子どもたちが地域との愛着や関心を高めている。さらに安全安心な給食の提供ができています。			b
成果を示す 主な指標	事業名	指標名(単位)	H22	H23	H24	評価
	地産地消の推進事業	学校給食での地場産物の使用割合(%)	51	54	58	b
施策の 総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			
課題と 今後の方向	・JA(茨城みずほ)及び地元産取扱業者並びに生産団体との連携を図り、定期的な地元産食材の調整を行う。 また、現状の食材以外にも地元産の利用できる食材があれば積極的に使用する。					
教育行政 評価委員 による意見	・地元の食材を地元で食することはすばらしい。地産地消の意識もかなり定着してきていると思われるが、子ども達にどれが地元産なのかがわかるよう、メニューの表示方法に工夫が必要と考える。					

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	歴史資源の確保・活用		担当課	文化課		
総合計画における位置づけ	第 3 章	「まちの元気」をつくる				
	第 2 項	地域ブランドと交流空間づくり				
施策の目標	・文化財の活用を積極的に進めることで、市民が文化財をもっと身近に感じ、その重要性和保護の必要性を啓発する。 ・市民との協働により、文化財の保護・活用体制の充実を図る。 ・文化財の整備を進め、後世に伝えていくとともに、地域の資源として積極的な活用を図る体制をつくる。 ・郷土資料館では建物を活かした活用方法を策定し、施設の有効活用を図るための改修を行う。					
現状と課題	・所有者が主体となって整備事業に取り組み国、県、市が補助をしながら進めているが、多額の費用を必要とし、所有者の負担が大きい。また、災害復旧事業も本格化し、費用負担の増とともに、各種調査も入ってきており、市としての費用負担と事務量が增大している。 ・指定文化財については公開の体制が確立され、地域・大学と協働による公開も行われ、イベントとして浸透している。 ・埋蔵文化財専門職員が配置されていることで、国庫補助事業の採択を得ている。 ・郷土資料館の改修にあたっては、国庫補助事業の採択を受けたが、計画策定に遅れが生じたため改修実施設計が繰越事業となってしまう、若干の遅れが生じている。					
事務事業の成果と評価	事業名	概 要	主な成果			評価
	指定文化財公開推進	・指定文化財集中曝涼の開催	・市外3か所を含む13か所で公開 延4,593名が来場 ・茨城大生の解説ボランティア			a
	文化財保護普及啓発	・文化財ガイドブック改訂版発行 ・文化財ガイドブック・絵はがき(2種類)の販売 ・文化財ガイドマップの配布 ・巨樹巨木絵葉書の発行	・文化財ガイドブック販売189冊 ・文化財絵はがき販売84組 ・絵はがき10種類作成			b
	指定文化財保存整備	・西山荘御文庫保存整備 ・市内遺跡調査	・開発に伴う試掘3か所 ・水戸徳川家墓所試掘確認調査 ・市内遺跡調査報告書発行			b
	郷土資料館整備事業	・郷土資料館所蔵整理 ・梅津会館新館解体実施設計 ・郷土資料館改修計画策定	・学芸員有資格嘱託職員1名雇用 ・郷土資料館改修実施設計 (H25に繰越し)			b
	指定文化財等災害復旧事業	・水戸徳川家墓所、木造薬師如来坐像、西山荘、旧町屋変電所、郷土資料館分館の災害復旧	・木造薬師如来坐像...完了 ・旧町屋変電所...完了 ・水戸徳川家墓所...H 28まで ・西山荘...H 26まで			a
成果を示す主な指標	指標名(単位)		H22	H23	H24	評価
	指定文化財公開推進	指定文化財集中曝涼延べ来場者数	3,762	2,188	4,593	a
	文化財保護普及啓発	文化財ガイドブック有償頒布数	325	203	189	b
	郷土資料館企画展開催	企画展開催期間中の1日平均入場者数(人)	22	-	11	c
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要	
			○			

課題と 今後の方向	・指定文化財集中曝涼では、2日間とも好天に恵まれ、過去最高の来場者を迎えることができた。地域でも特色ある事業が展開され、また、茨城大学人文学部の協力により展示資料の解説も行われ、来場者からも地域からも好評であったので、今後継続してできるように連携を進めていく。 ・文化財ガイドブックは改訂版を発行し、販売部数も順調である。また、巨樹巨木の絵はがきを発行し、販売価格を仏像編とともに100円に設定し、広く周知できるよう努めている。 ・郷土資料館の改修は、H23に保存活用計画を策定し、新館解体などの諸事情により一部を改訂して、H24からの繰越事業として実施設計を行っている。今後は改修後の施設の運営について指定管理者制度も含めて効率的な運営について検討をしていく必要がある。 ・指定文化財の災害復旧にあたっては、国・県の補助を受けながら事業に取り組んでおり、早期の事業完了を目指しているが、文化財の復旧という特殊技術を要するため、H28まで継続する状況である。
教育行政 評価委員 による意見	・指定文化財集中曝涼は公開場所も増え、地域の方々と一体となっておもてなしができたと考える。解説ボランティアも好評であり、今後も継続して歴史・文化に触れあう機会をつくってほしい。 ・集中曝涼の時期だけではなく、文化財へ案内する道路表示板の常設設置を望む。

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	自然・観光資源の環境整備とネットワーク化				担当課	文化課	
総合計画における位置づけ	第 3 章	「まちの元気」をつくる					
	第 2 項	地域ブランドと交流空間づくり					
施策の目標	・社会構造の変化や個人意識の多様化に伴い、地域コミュニティの衰退や地域の伝統文化等の風化が危惧されていることから、エコミュージアム活動により地域づくりに取り組む市民の自立性が喚起され、地域の良さや誇り、愛着を再認識し、温もりのあるコミュニティの醸成を図り、更には、地域の人や資源を活かした地域活動（環境整備や交流活動、生産及び経済活動）を推進し、次の世代に引き継ぐことを目的とする。						
現状と課題	(現状) 地域住民が主体となって、地域資源を認識し、暮らしや地域を見つめ直し、地域への愛情と誇りを持てる活力ある地域づくりを、地域主体で市民主導型の活動となるように支援している。 (課題) エコミュージアム活動推進委員会の活性化を図る。 エコミュージアム活動への更なる市民参加の向上を図る。						
事務事業の成果と評価	事業名	概 要	主 な 成 果			評 価	
	地域訪問による啓発活動	・エコミュージアム(地域全体が博物館)の理念や概念の推進をする。	・地域の会議へ同席し、説明会等の実施及び来庁者に対してのエコサロンでの説明の実施。			b	
	地域資源の探索、地域交流事業	・地域の人や資源を活かした地域活動(環境整備や交流活動、生産及び経済活動)を推進する。	・地域の見直しやコミュニティの醸成が図られた。			a	
	地域交流事業の支援、地域活動の支援	・事業の進め方の相談や助言、講師の紹介。	・地域が主体となるような活動が増えている。			b	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)		H22	H23	H24	評価
	エコミュージアム活動	エコミュージアム活動の推進		11	12	17	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要		
			○				
課題と今後の方向	・エコミュージアム事業は、地域が主体となるような中長期的な展望にたったものであり、生活に密着した循環型社会の構築を目指し、積極的に推進する必要性がある。 ・また、職員による積極的な地域訪問や説明会を基本としているが、情報媒体を利用した活動の紹介や地域間交流活動の新たな展開を推進したい。 ・今後は、エコミュージアム活動を継続している地域の広域的なエコミュージアム活動の展開の支援を行うこと、そしてエコミュージアム活動を取り組んだ地域への支援もあわせて検討していきたい。						
教育行政評価委員による意見	・エコミュージアム活動は、新地区の取り組みも増え地域コミュニティの醸成が図られてきていると思われる。地域独自の方向性や主体的な取り組みができるよう今後も継続して推進して欲しい。 ・エコミュージアムやジオパークなど生涯学習との関連も深いことから、連携を図りつつ取り組んでほしい。						

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	広域連携・交流の推進			担当課	図書館		
総合計画における位置づけ	第 3 章	「まちの元気」をつくる					
	第 2 項	地域ブランドと交流空間づくり					
施策の目標	・ 5 市(日立市,高萩市,北茨城市,福島県いわき市,常陸太田市)の図書館の条例・規則等の定めるところにより,貸出その他の広域利用に必要な事業を行う。						
現状と課題	・ 5 市の協定を締結して,平成23年7月から実施している。広域利用カードを作製し,利用市立図書館へ登録して図書資料の貸出を行っている。隣接市の利用が多いので,今後は隣接市町村との相互利用を進めていきたい。						
事務事業の成果と評価	事業名	概 要	主 な 成 果			評 価	
	公共図書館広域相互利用	・ 5 市(日立市,高萩市,北茨城市,福島県いわき市,常陸太田市)の図書館が,広域利用協定市の利用者にそれぞれ図書資料の貸出を行っている。	・ 地元の図書館へ行くのが不便だった利用者が,他市の図書を借りられるようになり,図書の利用向上が図られた。 利用カード登録者数 ...1 56人 * 他市の利用カード登録者数 日立市.....4 68人 高萩市.....2 56人 北茨城市...1 24人 いわき市 ...5 11人			b	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)	H22	H23	H24	評価	
	公共図書館広域相互利用	貸出数(冊)	-	1,535	2,004	b	
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要		
			○				
課題と今後の方向	・ 5 市の協定を締結して,平成23年7月から実施している。広域利用カードを作製し,当市立図書館への登録者数は156人(内訳;日立市...1 51人,高萩市...2 人,北茨城市...0 人,いわき市...3 人),常陸太田市民が協定市に登録している数は30人(内訳;日立市...2 2人,高萩市...1 人,北茨城市...0 人,いわき市...7 人)である。今後も引続き広域相互利用を継続していくが,更に隣接市町村との相互利用も推進していく。						
教育行政評価委員による意見	・ 今後も図書利用や市民の利便性向上を図るため、常陸太田市を中心とした隣接市(常陸大宮市・那珂市・東海村)への範囲拡大を図ってほしい。						

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	H 健やかな体はぐくみプラン				担当課	指導室		
総合計画における位置づけ	第 1 章	「輝く人」をつくる						
	第 1 項	未来を拓く人づくり						
施策の目標	・たくましい体と自分にうちかつ心を育む。 ・礼儀を重んじ、健康や体力を育む。							
学校教育マニフェスト	○ 自分にうちかつ心もち、心身ともに健やかな子どもを育成する。 ・体力テストの結果分析を基にして、子ども一人一人にめあてをもたせ、体力の向上を図る。 ・体力づくりを重視した運動の充実を図り、子どもたちが協力し合いながら運動することを通して、健やかな子どもの育成に努める。 ・地域や学校の実態に応じた食育を推進し、健康な体づくりに努める。							
事務事業の成果と評価	事業名	概 要		主な成果		評価		
	体力・運動能力調査	・全児童生徒に8種目の体力テストを実施、分析することにより学校体育・健康に関する指導等の改善に役立てる。		・体力テストの総合評価(A+B)の割合は、県及び県北の平均を上回っている。		b		
	心と体をはぐくむ食育推進	・学校における「食に関する指導」の充実を図り、食に関する正しい知識を持たせ、望ましい食生活へ改善していく力を身に付けさせる。		・栄養教諭等を活用した食育に関する指導が積極的に進められ始めている。		b		
	児童生徒の体力アップサポート	・学校教育活動における体育・スポーツ活動の充実を図り、健康で体力のバランスのとれたたくましい心と体をもった子を育成する。		・各学校では、体力づくり推進計画を作成し、それに基づき特色を生かした体力づくりに取り組んでいる。また、各種大会や記録会等にも児童生徒が積極的に参加している。		b		
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)			H22	H23	H24	評価
	体力・運動能力調査	体力テスト総合評価(A + B)の割合・(%)			63.6	64.5	65.6	b
	心と体をはぐくむ食育推進	全国学力・学習状況調査等(朝食を毎日食べている「している」・%)<小6・中3>			90.6	-	89.8	b
	児童生徒の体力アップサポート	4段階評価の平均値(指数)			3.3	3.6	3.5	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要			
			○					
課題と今後の方向	・体力テストは、学年や種目、学校の状況によっても課題が見受けられる。児童生徒の実態に応じた適切な指導計画と課題を踏まえた共通実践が必要である。 ・望ましい食生活や健康・体力増進の実践には、家庭の理解と協力が不可欠である。学校の取組を周知し、家庭との連携を図ることが大切である。 ・食に関する指導の中心的役割を果たす栄養教諭が平成25年度から2名配置されたので、今後は各校でのさらなる積極的な取組が期待できる。							
教育行政評価委員による意見	・体力テストの結果は、県内でも上位にあると聞く。今後も児童生徒の体力アップが図られるよう継続して取り組んでほしい。 ・陸上教室など基礎的・専門的な体育指導を学校単位で開催できないか、検討してほしい。							

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	E 開かれた学校づくりプラン			担当課	指導室			
総合計画における位置づけ	第 1 章	「輝く人」をつくる						
	第 1 項	未来を拓く人づくり						
施策の目標	・学校組織の総合力を高め、子どもの夢を育む学校づくりに努める。 ・学校と家庭が連携し、一体化した教育の推進に努める。 ・教育情報の共有化を図り、地域の教育力を生かした学校づくりに努める。							
学校教育マニフェスト	○ 家庭・地域・教職員が一体となって「親子ともみがき活動」を展開し、親子のふれあいを醸成する。 ・家庭や地域の協力を得て、子どもたちが安全で楽しい学校生活を送れるように努める。 ・学校評価の結果や学校マニフェストの公表を積極的に行い、それを生かした魅力ある学校づくりに努める。 ・学校や市教育委員会ホームページで教育情報を提供する。 ・地域の教育力を活用した学習活動を展開する。							
事務事業の成果と評価	事業名	概 要		主な成果			評価	
	地域の教育力を生かした学習活動	・各学校が保護者・地域の教育力(特色)を生かした学習活動を行う。		・地域の伝統文化への理解が深まるとともに、社会性や他者への思いやり、感謝の心、郷土を慈しみ大切に思う心情などが育った。			a	
	情報収集・情報提供による教育情報の共有化	・学校や家庭・地域が目標を共有し、子どもたちが学校生活の楽しさを実感できる教育活動に努める。		・各学校とも学校評議員会、民生委員協議会、三世代交流会等を開催し、いろいろな方々の協力や支援をいただき、地域として子どもたちを育てようとする意識が醸成されてきている。			b	
	学校評価と結果・改善案の公表	・各学校は、自校の教育プランを策定・公表する。また、中間期等に教育活動の自己評価や学校関係者評価を行い、改善案等を含めて公表する。		・各学校とも学校評価の結果・改善案の公表を行っている。各学校の取組やよさ、課題も積極的に広報し、説明責任を果たしている。			a	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)			H22	H23	H24	評価
	地域の教育力を生かした学習活動	全国学力・学習状況調査等(地域人材を外部講師として招聘した授業を行ったか「行った」・%)			91.7	-	51.8	b
	情報収集・情報提供による教育情報の共有化	全国学力・学習状況調査等(保護者から意見や要望を聞くための懇談会やアンケート調査の実施【回数「年間4回以上」・%】)			65.0	-	75.9	b
	学校評価と結果・改善案の公表	学校評価と結果・改善案の公表【%】			100.0	100.0	100.0	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要			
			○					
課題と今後の方向	・地域と連携した教育活動の実践は継続していく。 ・教育プランや学校評価の公表については今後も積極的に継続していく。							
教育行政評価委員による意見	・学校だよりなど情報発信が小まめにされている。今後も積極的に学校情報を地域に発信してほしい。 ・学校のホームページで個人が特定できるような画像については、学校と連携を図りつつ、適切に指導を行ってほしい。							

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	A 確かな学力向上プラン			担当課	指導室			
総合計画における位置づけ	第 1 章	「輝く人」をつくる						
	第 1 項	未来を拓く人づくり						
施策の目標	・学習指導要領の趣旨を生かし、基礎的な知識及び技能の確実な習得とそれらの活用を通して、自ら学び自ら考えるなどの確かな学力を育む。 ・言語活動の充実を図り、思考力・判断力・表現力等を育む。							
学校教育マニフェスト	○ 確かな学力の定着を図り、個性を発揮できる子どもの育成に努める。 ・子ども一人一人の学習状況を基盤としたきめ細かな指導を充実させる。(子ども一人一人の学習の実態に応じたTTや少人数指導を充実させる。) ・基礎的な知識及び技能の習得とそれらの活用を図る授業改善に努め、思考力・判断力・表現力等を育成する。 ・子ども一人一人が学ぶことの楽しさや充実感が味わえる指導方法の工夫を図り、学習意欲の向上と家庭学習の習慣化を推進する。 ・発達障害等への理解を深め、全職員で取り組む特別支援教育を推進する。 ・学校・家庭・関係機関が連携し、子ども一人一人のニーズに応じた支援を行う。 ○ 県学力診断のためのテストで平均正答率前年度比5ポイントアップを目指す。 ・県学力診断のためのテストや全国学力・学習状況調査、特に単元末テストの結果を生かし、子ども一人一人に焦点をあてた指導法等の工夫・改善を図る。(指導と評価の一体化) ・未来を拓く常陸太田っ子育成プランを推進し、子ども一人一人の学力向上を図る。							
事務事業の成果と評価	事業名	概 要		主な成果			評価	
	きめ細かな指導のための指導法の工夫改善	・児童生徒一人一人の学習内容の習熟の程度に応じたTTや少人数指導、指導方法の工夫・改善を行う。		・学校評価の報告「授業がわかる」90.7%			b	
	全国学力・学習状況調査等の結果分析及びその活用	・各学校が、児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、指導法の改善等に役立てる。		・各学校とも、児童生徒の実態だけでなく、自校の指導環境、指導体制等も含めて分析し、具体的な改善策を立てて、実践している。			a	
	確かな学力向上プランの取組	・本市の学校教育指針に基づき、各学校では「未来を拓く常陸太田っ子育成プラン」を推進し、子ども一人一人の学力向上を図る。		・各学校とも自校の特色を生かし、また課題解決に向けて、具体的な施策のもと、学力向上への取組がなされている。			b	
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)			H22	H23	H24	評価
	きめ細かな指導のための指導法の工夫改善	学校評価4段階評価の平均値(指数)			3.7	3.7	3.8	b
	全国学力・学習状況調査等の結果分析及びその活用	全国学力・学習状況調査(全国学力・学習状況調査を分析し、具体的な学習指導の改善に活用したか「はい」・%)			100.0	100.0	100.0	a
	確かな学力向上プランの取組	学校評価4段階評価の平均値(指数)			3.3	3.3	3.4	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要			
			○					
課題と今後の方向	・少子化が進み、1学級あたりの児童生徒数は減少傾向である。教科や学年等に違いはあるものの、TTはほぼ全ての学級で実施されている。児童生徒一人ひとりへの支援が手厚くなっている反面、児童生徒が主体的に学習活動に取り組めるような指導の在り方を考えていく必要がある。 ・各学校とも、各種調査等から自校の学力面での課題をとらえて解決を図っているが、一人一人への支援という点で、特に特別支援教育へのニーズが高まっている。適切な見立てと適切な援助・支援が円滑に行われることも、ますます必要になってきている。教育委員会と関係部局等との連携をさらに進め、児童生徒一人一人に適切な教育・支援が行われるようにする。							
教育行政評価委員による意見	・今後も少人数化が進むと思われるが、効果的なTTや少人数指導を行ってほしい。 ・特別支援教育へのニーズが高まる中、発達障害のある児童・生徒の増加に伴う介助員の確保に努めてほしい。							

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	R 豊かな心はぐくみプラン			担当課	指導室		
総合計画における位置づけ	第 1 章	「輝く人」をつくる					
	第 1 項	未来を拓く人づくり					
施策の目標	・常陸太田の自然や伝統的な行事，生活習慣等を学ぶ機会を充実させ，郷土愛を育む。 ・外国の文化や生活に慣れ親しむ活動を推進し，国際理解の充実に努める。 ・自他の生命を尊重し，友だちを思いやる心の育成に努め，社会に貢献しようとする心を育む。						
学校教育マニフェスト	○ 人・もの・自然との関わりを通して，将来の夢に向けて努力する子どもの育成に努める。 ・心の教育の総合単元的な取組を推進し，家庭・地域と連携しながら，道徳的な実践力を育成する。 ・図書館の整備を進め，読書活動を推進する。みんなに進めたい一冊の本推進事業 (小学校)50冊以上達成者 70％以上 (中学校)30冊以上達成者 30％以上 ・家庭や地域と連携して，みんないっしょにマナーアップの推進に取り組む。 ・市子ども人権スローガンの下，人権感覚や人権意識を育む活動を展開し，いじめ等をなくす取組を充実させる。 ○ 不登校出現率0.5％以内を目指す。 ・子ども一人一人のコミュニケーションを大切に，小さなサインを見逃さないようにする。 ・子どもとのふれあいを通して，信頼関係を築きながら子ども一人一人の目標達成のための支援を充実させる。						
事務事業の成果と評価	事業名	概 要	主な成果		評価		
	豊かな心はぐくみプランの取組	・自他の生命を尊重し，友だちを思いやる心の育成に努め，社会に貢献しようとする心を育む。	・学校評価の報告 「学校が楽しい」 92.9%		b		
	人権教育の推進	・市子ども人権スローガンの周知と実践，人権意識等をはぐくむ取組を展開し，いじめ等をなくす取組の充実を図る。	・各学校とも，いじめ等を根絶するため人権教室や人権集会等を開催し，人権意識の育成に努めている。いじめアンケートを毎月実施するようにし，未然防止と早期発見・早期解決に努めている。		b		
	教育相談の充実	・子ども一人一人とのコミュニケーションを大切に，小さなサインを見逃さないようにする教育活動に取り組む。	・学校では，定期的な児童生徒一人一人への教育相談を実施するだけでなく，生徒指導上気になる子がいる場合に，ケース会議等を開催し，組織で児童生徒の悩みや不安解消に努めている。		a		
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)		H22	H23	H24	評価
	豊かな心はぐくみプランの取組	学校評価4段階評価の平均値(指数)		3.4	3.5	3.4	b
	人権教育の推進	全国学力・学習状況調査等(いじめはどんな理由があってもいけないことだと思う「当てはまる」・%)		77.8	-	80.7	b
	教育相談の充実	不登校出現率(%)		0.52	0.49	0.49	a
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要		
			○				
課題と今後の方向	・いじめの未然防止と早期発見・早期解決に向けた取組は，毎月行っている市生徒指導連絡協議会においても適宜確認・指導している。いじめや不登校など生徒指導上の課題解決については，生徒指導主事の力量を向上させると共に，全職員が意識して学校としての取組を推進できるようにする必要がある。 ・各学校では様々な体験活動なども実施し，人やもの，自然と関わる機会をつくっている。豊かな心を育む取組としてそれらの活動を生かすために，全教育活動における道徳教育の一層の推進が求められる。						
教育行政評価委員による意見	・目標達成をパーセントで表記しているが，クリアできて良しではなく，クリアできなかったことに対して目を向けることも忘れずに対応してほしい。 ・不登校率は他市に比べて低いと聞く。携帯やネット社会へと形態が以前とは様変わりしているが，是非ゼロを目指して取り組んでほしい。						

教育委員会施策の点検・評価書(平成24年度事業)

施策名	T 教職員の資質向上プラン				担当課	指導室		
総合計画における位置づけ	第 1 章	「輝く人」をつくる						
	第 1 項	未来を拓く人づくり						
施策の目標	・広く社会から尊敬され、信頼される質の高い教師の育成に努める。 ・ライフステージに応じた教職員研修カリキュラムを作成し、研修の充実に努める。							
学校教育マニフェスト	○ 教師力を高めるため、教育の方向性や学校の課題を踏まえた研修を行う。 ・計画訪問及び要請訪問等での指導助言を充実させ、授業力の向上を支援する。 ・求める研修の場として、市教育研究所研修講座に積極的に参加し、授業力の向上に努める。(参加者のべ600名以上) ・市教育会と連携し、各種研修講座を開催するとともに、その内容の充実を図る。(教育実践,教科指導法,教科実技研修会,生徒指導研修会,明るい学校づくり研修会等) ・職務の効率化を図り、子どもと向き合う時間の確保に努める。							
事務事業の成果と評価	事業名	概 要		主な成果		評価		
	教育実践研修会	・日頃の教育実践を生かした教育論文の書き方から授業分析までの研修。教員としての資質向上と常陸太田市からの発信を目的とする。		・県の教育論文応募15点。入賞6点。		a		
	実践的な研修の実施	・郷土教育研修会,ICT研修会,理科指導法研修会等授業に役立つことを目的とした研修会。		・教員一人一人が専門職としての力量を高めるために積極的に参加し、日々の教育活動に役立てている。		b		
	常陸太田教育研究所研修講座	・教員個々の自発的・主体的な意欲に基づいた「求める研修」を行うことで、教員としての資質及び指導力の向上を図る。		・年齢や経験段階に応じた研修と教育界の動向をニーズに応じた研修会を行うことで、学校や教員個人が抱える課題解決の一助となっている。		b		
成果を示す主な指標	事業名	指標名(単位)			H22	H23	H24	評価
	教育実践研修会	参加人数(人)			23	26	23	a
	実践的な研修の実施	全国学力・学習状況調査等(模擬授業や事例研究など,実践的な研修を行っているか「している」・%)			100.0	100.0	100.0	b
	常陸太田教育研究所研修講座	参加人数(人)			657	588	800	b
施策の総合評価	A 期待した成果があった		B 一定の成果があった		C 見直しや改善が必要			
			○					
課題と今後の方向	・教職員の大量退職時代を控え、教育会と積極的に連携し、実技研修会を中心とした指導技術の向上を図る必要がある。 ・よき学校文化の伝承も含めた校内研修を充実させたい。 ・学校の課題解決を図れるような授業改善に関する校内外の研修を引き続き充実させていく。							
教育行政評価委員による意見	・以前に比べ先生が忙しくなっているように思われる。効率化を図り、子ども達と向き合う時間の確保に努めてほしい。 ・今後も各種研修講座を通して、教員としての資質及び指導力の向上に努めてほしい。							

参考 教育委員会の活動状況

1. 教育委員会委員について

本市教育委員会は、人格が高潔で、教育、学術及び文化に関し識見を有する者のうちから、市長が市議会の同意を得て任命した5名の委員により構成されている。

常陸太田市教育委員会委員〔平成25年3月31日現在〕

職 名	氏 名	任 期
委員長	西野 孝一	平成21年10月5日から平成25年10月4日まで
委員長職務代理者	佐藤 幸子	平成21年4月1日から平成25年3月31日まで
委員	根本 恵子	平成23年4月1日から平成27年3月31日まで
委員	本多 技研	平成24年4月1日から平成28年3月31日まで
教育長	中原 一博	平成21年4月1日から平成25年3月31日まで

2. 教育委員会の活動状況について

定例会、臨時会など、平成24年度における本市教育委員会の主な活動状況は、次のとおりである。

年 月 日	出 席 委員数	件 名
平成24年 4月 2日	4名	臨時会 ・委員長職務代理者の指定について
平成24年 4月 6日	3名	市内小学校入学式
平成24年 4月 9日	4名	市内小学校入学式
平成24年 4月26日	5名	定例会 ・常陸太田市公民館運営審議会委員の委嘱について ・市教育委員会の行事等について
平成24年 5月25日	5名	定例会 ・常陸太田市立幼稚園保育料徴収条例施行規則の一部改正について ・常陸太田市障害児就学指導委員会委員の委嘱について ・常陸太田市奨学生選考審査会委員の委嘱等について ・常陸太田市社会教育委員の委嘱について ・常陸太田市公民館運営審議会委員の委嘱について ・常陸太田市立図書館協議会委員の任命について ・常陸太田市学校事務の共同実施グループの設置及び中心校と連携校の指定について ・常陸太田市学校事務の共同実施グループの事務長の任

		命について ・平成２４年度常陸太田市一般会計補正予算（第１号）案（教育費関係）の編成に対する意見について ・市教育委員会の行事等について
平成２４年 ６月２８日	５名	定例会 ・教育財産（旧佐都小学校の一部）の所管換えについて ・市教育委員会の行事等について
平成２４年 ７月２６日	５名	定例会 ・平成２５年度使用小・中学校教科用図書採択について ・市教育委員会の行事等について
平成２４年 ８月２０日	４名	臨時会 ・市内中学生の自殺事故について（報告）
平成２４年 ８月２４日	４名	定例会 ・常陸太田市学校防災推進委員会設置要綱の制定について ・平成２４年度常陸太田市一般会計補正予算（第５号）案（教育費関係）の編成に対する意見について ・市教育委員会の行事等について
平成２４年 ９月２８日	５名	定例会 ・平成２４年度小・中学校県費負担教職員の勤務評定の結果について（報告） ・常陸太田市立図書館協議会委員の任命について ・常陸太田市教育委員会委員長の選挙について ・市教育委員会の行事等について
平成２４年１０月１７日	４名	学校訪問（小学校３校・中学校１校）
平成２４年１０月２３日	５名	学校訪問（小学校２校・中学校１校・幼稚園１園・給食センター）
平成２４年１０月２５日	４名	学校訪問（中学校２校・幼稚園１園）
平成２４年１０月２５日	４名	定例会 ・諸般の報告 ・市教育委員会の行事等について
平成２４年１０月２９日	５名	学校訪問（小学校２校・幼稚園２園）
平成２４年１１月２９日	３名	定例会 ・常陸太田市金砂郷地区学校建設基金の設置、管理及び処分に関する条例及び常陸太田市立里美中学校建設基金の設置、管理及び処分に関する条例の一部を改正す

		- る条例の意見について ・常陸太田市西山研修所の設置及び管理に関する条例の意見について ・常陸太田市西山研修所の設置及び管理に関する条例施行規則の制定について ・常陸太田市公民館主事の任命について ・平成２４年度常陸太田市一般会計補正予算（第７号）案（教育費関係）の編成に対する意見について ・市教育委員会の行事等について
平成２４年１２月１９日	５名	定例会 ・常陸太田市公民館運営審議会委員の委嘱について ・市教育委員会の行事等について
平成２４年１２月２２日	５名	常陸太田市教育振興大会
平成２５年　１月１３日	５名	平成２５年成人式
平成２５年　１月２４日	５名	定例会 ・諸般の報告 ・市教育委員会の行事等について ・教育施設の現地視察
平成２５年　２月２８日	５名	定例会 ・常陸太田市立幼稚園設置条例の一部を改正する条例の意見について ・常陸太田市運動公園の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の意見について ・常陸太田市スポーツ施設の設置及び管理に関する条例の一部を改正する条例の意見について ・常陸太田市スポーツ施設の設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について ・常陸太田市学校給食センターの設置及び管理に関する条例施行規則の一部改正について ・常陸太田市公の施設に係る指定管理者の指定について ・平成２４年度常陸太田市一般会計補正予算（第１０号）案（教育費関係）の編成に対する意見について ・平成２５年度常陸太田市一般会計予算案（教育費関係）の編成に対する意見について ・教育財産（旧瑞竜小学校）の所管換えについて ・教育財産（旧金砂公民館）の所管換えについて

		・市教育委員会の行事等について
平成２５年　３月１２日	３名	市内中学校卒業式
平成２５年　３月１４日	５名	定例会 ・県費負担教職員の任免等の内申について ・市教育委員会の行事等について
平成２５年　３月２９日	５名	臨時会 ・常陸太田市教育委員会教育長の任命について ・常陸太田市立小中学校通学費補助金交付要綱の全部改正について ・学校歯科医の委嘱について ・常陸太田市公民館長の任命について ・常陸太田市公民館主事の任命について ・常陸太田市公民館運営審議会委員の委嘱について ・常陸太田市教育委員会の所管に属する職員の任免について
平成２４年度　教育委員会の会議開催状況		
１　開催回数　１５回（定例会１２回、臨時会３回）		
２　議案件数　４０件		
３　報告件数　２件		
４　選挙件数　２件		